



子どもの本や、子どもの読書活動の県内外の情報をお届けします！  
山梨県立図書館 TEL055-226-2586 <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

## ～ 県内外のニュースから ～

### 子ども司書が各地で誕生予定

子ども達が読書活動のリーダー的役割を担う「子ども司書」の育成が広がっています。福島県の矢祭もったいない図書館や高知県で昨年度第1期生が誕生し、今年度は広島県や栃木県小山市中央図書館等で養成講座が開講されます。募集人数や講座の内容は自治体によって異なりますが、小学校高学年から中学生を対象に、図書館の役割・資料の整理・検索方法に関する研修と窓口体験等の講座を行う所が多いようです。子ども司書が読書の楽しさを周囲に伝えることで、中学生からの読書離れに歯止めがかかることが期待されています\*。山中湖情報創造館では、ジュニアライブ ライブのワークショップを開き、小中学生が図書館と本に親しむ機会を設けています。

### 県内の子どもの読書活動推進計画 ～甲斐市・笛吹市で策定～

国民読書年である今年、新たに甲斐市(3月)と笛吹市(3月)で子どもの読書活動推進計画が策定され、県内策定市町村は9つになりました。

**甲斐市:**子どもが読書の楽しさを知り、自ら進んで本を読むような環境づくりを社会全体で取り組むために、子どもの読書環境の整備、学校図書館・公共図書館等の物的・人的サービスの充実を計画の目標に掲げている。

**笛吹市:**子どもが読書の楽しさに触れ、読書習慣を身に付け、また読書環境を整備するために、読書への動機付け、子どもの読書に対する理解の促進、人材育成・連携協力等を目標に掲げている。どちらも5カ年計画で0-18歳が対象です。

◇各市のwebサイトから御覧になれます◇

\*参考資料:日経新聞'09/12/25, 山日新聞'09/2/28, 朝日新聞'10/4/9, 日本教育新聞'10/3/9, 下野新聞'10/3/18 高知県教育委員会「平成21年度当初予算案参考資料」、広島県教育委員会「平成22年度当初予算の概要」、ふくしまエンゼルネット「県内市町村の独自調査結果」



### 絵本原画の魅力 【藪内正幸美術館】



藪内正幸氏の描く動物たちは絵本の中にたくさん登場しています。県内の藪内正幸美術館から、原画の魅力をお伝えします。

「藪内正幸は画を習ったことはない。また写真など見ずに描く」。そうお話をすると多くの方は驚かれます。幼少の頃より生き物好きだった藪内は足繁く動物園に通い、知りたいことは動物学者の方に質問を送っていました。そして必ず描き添えられた動物の画が学者の目にとまり、後に図鑑の挿絵をまかされることとなります。動物画家という職業がまだ無かった時代に、身近な生き物の観察に明け暮れ動物の画を描き続ける、将来への不安を抱きながらも好きなことをやり通した、好きこそ物の上手なれを地でいった人生。その背景には、子供が一生懸命になっていることを応援してくれた親の理解がありました。

(藪内竜太郎館長より)

☆☆ 今にも動き出しそうに生き生きと描かれた ☆☆  
☆☆ 動物たちの原画を見ることができます ☆☆

開館時間:午前10時～午後5時(入館は午後4時まで)  
所在地:北杜市白州町鳥原 電話:0551-35-0088  
URL: <http://yabuuchi-art.main.jp/>

### 児童図書研究書紹介コーナー

- 『賞をとった子どもの本 70の賞とその歴史』ロース・アリソ著 こだまともこ監訳  
玉川大学出版部 2009年発行

「ルゲ」賞など英語圏諸国の特定の児童文学作品に与えられる70の賞を取り上げ、成立背景と受賞作の歩みをまとめたもの。和訳された作品は邦題も併記しています。また、賞の特性毎に並んでおり、それぞれの関係がつかみやすい構成です。巻末には賞の一覧と題名・人名索引が付いています。既刊の『英語圏の児童文学賞 受賞作品とその邦訳』(安藤紀子発行、2001)には、作家や画家に授与される賞も含まれています。賞の概要と受賞作、和訳作品の邦題がわかります。東京子ども図書館編集の『日本の児童図書賞』は、日本の賞と外国の賞を五十音順に配置し解説したものです。賞の概要や、受賞作とそのページ数・大きさ等が記載されています。1992～1996年の情報を集めたものが最新で、計92タイトル(賞)が収められています。

## 気になるトピック ○理科読(いかどく)○



「理科読」とは、科学の本の面白さを知ってもらい、科学の本を読むことを広めていくこと、そして既に出版されている良い本を読者に届けるシステムを作っていくという運動です<sup>(a)</sup>。子どもに科学の面白さを伝える科学読み物が、今後さらに朝読や読み聞かせなどに取り入れられていくことでしょう。そこで、科学読み物の歴史と特徴についてまとめてみました。

### ■ 科学読み物とは

仮説を立て、実験・観察から法則や理論体系をつくる学問(=科学)の形をとったもの(鷲谷昂, 2002)<sup>(b)</sup>、または、自然の鋭い洞察または描写、あるいは自然や科学への幅広い関心を育てられるもの全て(フィクションであるSFや動物文学含む)(中川宏, 1981)<sup>(c)</sup>と定義されています。最近では後者の立場から科学の本を編集することが多いようです。科学教育者である板倉聖宣の『科学の本の読み方すすめ方』(仮説社, 1993)では、科学読み物の役割について触れられています。

テーマとしては、観察や実験によって自分の目で見たり確かめたりできるものと、そうでないものに分けられます<sup>(d)</sup>。

### ■ 科学読み物の流れ

日本最初の科学読み物と言われる『訓蒙窮理図解』(福沢諭吉)が出版されたのは1868年。当初科学読み物は理科の教科書に使われるなどしていました。大正期、デモクラシーや第一次世界大戦の影響から科学教育が盛んになりました。「子どもの科学」(誠文堂新光社)が出版されたのはこの時期です<sup>(e)</sup>。

第二次世界大戦後、GHQによる教育改革や出版界の混乱の中で現在の科学読み物の基調が作られていきます。戦前までは科学の基礎的な事項が中心で啓蒙的な色が濃かった科学読み物も、戦後になると学校の理科教育で取り上げないような複雑なテーマが扱われるようになりました。また、親子読書運動から科学絵本が普及し、1970年頃までに『科学のアルバム』シリーズ(あかね書房)や「かがくのとも」(福音館書店)等が出版されました。1980年代、テレビの影響もあって視覚的なものが求められ、科学読み物の写真や紙の質が向上しました。1990年代、学習指導要領の改訂により調べ学習向けの本が多く出版され、パソコンやDVD等の新テーマが科学読み物の世界に入ってきました。内容自体も子どもの知的好奇心を育てるだけでなく、自分なりに考え行動する「自主性」を育成する方向へシフトしていきます<sup>(f)</sup>。

近年では再刊が多く、理科離れへの親の危機感もあり子ども向け科学雑誌の部数が伸びています。「自然を探ることのすばらしさを伝えたい」「身のまわりにある不思議なものとの出会いのきっかけ作りを」<sup>(g)</sup>「子どもの想像力を刺激するような柔軟な発想で作りたい」<sup>(h)</sup>といった編集者の思いもあり、子どもにとって魅力的な科学読み物が今後も期待されます。

### ■ 科学読み物を選ぶポイント

「すぐれた科学の本」のポイント(加古里子, 1971)は、まず①内容が正しく間違っていないこと②内容が発展的に書かれていること。時代と共に改定される必要があるということです。③文・図・写真等が一体となって展開していること④興味によって買われていること。子どもの興味を引き出せるかに関係します。また、⑤安価でしかも値段が内容に見合っていること(粗悪品ではないもの)⑥その本の存在意義があり、歴史性がそれに求められること(時事テーマの採用)も挙げられています。その他、⑦子どもがわかる言葉・論理で書かれていること⑧本を読んだ後そこに書かれていたことを追体験したくなる本⑨絶対に安全であること等もポイントになります<sup>(i)</sup>。

簡潔な例として①一つの真理をじっくり取り上げた本②易しくて面白い本③誰にでも追体験できる実験の載っている本(坂口美佳子, 2010)という選定ポイントもあります<sup>(j)</sup>。

### ■ 理科読を通じて

科学読み物の面白さは日常生活の中の不思議、科学の面白さにつながっています。子どもは科学読み物と物語の本を区別せずに楽しむので、子ども時代に科学の楽しさを知り、その読書力を身に付ければ、大人になってからも科学に対する苦手意識は生まれませんでしょう<sup>(k)(l)</sup>。科学読み物を読み、知識や理論を積み重ねていく過程で体系的な思考ができるようになり、視野も広がります。大切なのは、まず大人が科学(読み物)に興味を持ち、子どもに本を手渡して実体験を共にすることです。

### ■ 参考文献

- a) j) 『理科読をはじめよう』(岩波書店, 2010)
- b) f) 「日本児童文学」(日本児童文学者協会) 2002.11-12, 第48巻第6号
- c) d) i) k) 『科学よみものの30年』小川真理子, 赤藤由美子著(連合出版, 2000)
- e) 板倉聖宣「科学読物の生いたち」『少年少女科学名著全集30』(国土社, 1982)
- g) 「こどもの図書館」(児童図書館研究会) 2001.12, vol.48 no.12
- h) 「日本経済新聞」2010年5月2日付記事
- l) 「こどもの図書館」(児童図書館研究会) 2008.7, vol.55 no.7

